

特集 ■ 法然上人八百年御忌、浄運寺開創八百年

# 念仏すけささぬ人(五)

## — 角張成阿のこと —

東北大学名誉教授 高橋 富雄

### 角張成阿と沙弥隨蓮

分陀利の口伝を旨に様なきやう  
形影伴ひ爾汝を契りて

口伝なくして浄土の法門を見るに、  
往生の得分を見失ふなり。わが身  
は最下の凡夫にて、善人をすすめ  
給へる文を見て、卑下の心をおこ

して、往生を不定におもひて、順  
次の往生を得ざるなり。しかれば  
善人をすすめ給へる所をば善人の  
分と見、悪人を勧め給へる所をば  
我が分と見て得分にするなり。

『四十八巻伝』巻第二十一「上人  
つねに仰せられる御詞」の章巻頭  
の法語として、おのずから上人全法  
語の中の「総の法語」の意味を持つ  
ものになります。「善人をすすめ給  
へる所」は「われらのこと」ではな  
い。「悪人を勧め給へる所」こそは  
「我が分である」——これが法然念仏  
法語究極のところです。

『正源明義抄』などという法然伝  
記によれば、門弟中、これ以上に頼

もしい信心堅固の内弟子はないよう  
に絶大の評価を与えられているわが  
角張成阿が、『四十八巻伝』のよう  
な正伝の中では、なぜそれにふさわ  
しい名譽の出番を持つことができな  
かったか、わたくしは不審に堪えま  
せんでした。今ここに来て氷解する  
に至ったのです。

そうだ。表の檜舞台というのは、  
「善人をすすめ給へる分」なのであ  
る。われら椽の下の方持ちのその他  
大勢グループは、ここでは「悪人を  
勧め給へる所をば我が分と見て得分  
とする」ことになっているのだ——

蒙を啓かれたわたくしは、そうし  
て、法然法語中総のところに最もふ  
さわしい念仏護持者として、わが角  
張成阿をこの首章口伝の中の第一人  
者として位置づけて考えるに至りま  
した。

その「悪人を勧め給へる口伝」と  
して「念仏は様なきをやうとす」が  
来るのです。まさしく「はじめにこ  
とばがあった」のです。「はじめア  
ルバの口伝」は「様なきをやうとす」  
の法語となつて「おわりオメガの口

伝」になりました。そして「総すべ  
て」になったのです。そうして、角  
張成阿と沙弥隨蓮とは、首尾一貫に  
結び合わされることになったのです。

後白河院北面(院警固)武士上が  
りの沙弥隨蓮は、形影相伴うように  
いつも角張成阿といっしょだったと、  
『正源明義抄』などは特筆大書して  
います。四国に最後まで師上人に隨  
従した「十二弟子」の中、確実にそ  
の実名をチェックできるのは、この  
二人だけです。まさしく「一切に心  
うましき内弟子」の代表「選ばれた  
二人」だったのです。

隨蓮伝説の「念仏は様なきをやう  
とす」法語の成立経緯はこうです。  
いかに念仏すとも、学問して三心  
をしらざらんには往生すべからず  
と申すものありければ、隨蓮申さ  
く、故上人は、念仏は様なきをや  
うとす、ただひらに仏語を信じて  
念仏すれば往生するなりとて、ま  
たく三心のことをも仰せられざり  
きと。

これによりますと、この法語はい  
かにも「師弟差」(マン・ツー・マ  
ン)の伝授だったかのようにも読ま  
れるのですが、これは物語のフィク  
ションです。『四十八巻伝』上人法  
語章の最終講に、この初講の口伝の  
法語に対応する三心法語があつて、  
これが隨蓮伝持持法語物語の原典だっ

たのです。ただ「様なきやう」は口  
伝だったために記録化されていない  
のです。こうあるのです。

三心と申す事は、その子細をしり  
たる人の念仏に三心具足せん事は  
左右に及ばず。つやつや三心の名  
をだにもしらぬ無智の輩の念仏に  
はいかにか三心具し候べきと申す  
人も候やらん。これは返す返す僻  
事(ひがごと)にて候なり。たと  
ひ三心の名をだにもしらぬ無智の  
者なれども、弥陀の誓を頼み奉り  
てすこしも疑ふ心なくして此の名  
号を唱ふれば、この心が即ち三心  
具足の心にてあるなり。さればた  
だひらに信じてだにも念仏すれば、  
三心はをのづからに具するなり。

隨蓮物語におけるその証言が、こ  
の公開講座の中の講話の要録である  
ことは一点の疑いもありません。  
ここで「三心の子細をしりたる人  
の念仏」とは「智者たち」「善人たち」  
の念仏のことで、親鸞が伝持した「義  
なきを義とす」というのは、その智  
者たちのための上等コース向けに説  
かれた「義解としての義なき義」の  
ことです。「極悪最下の者に極善最  
上の福音」を説く念仏のかたちには  
なじまないのです。「念仏は様なき  
をやうとす」は、無智・愚痴・悪人  
を勧める念仏に、贈り物としておの  
づからに具足する三心の形でした。